

地域づくりに関する現状と課題

生態系ネットワークの形成による魅力的な地域づくりを、多様な関係主体との連携によって実現するため、観光と農業の分野について、以下の関係主体にヒアリング等を実施し、当該地域の現状と課題を整理しました。

ヒアリング一覧

- ・ (公社)新潟県観光協会
- ・ JA グループ新潟
- ・ 株式会社新潟日報社
- ・ 第四北越フィナンシャルグループ
- ・ 株式会社大光銀行

■農業分野における当該地域の現状と課題

- ・ 農業従事者の高齢化がすすみ、「手間がかかる」農法を今後継続することが難しい可能性がある。
- ・ 環境保全型の認証米が増えても、生産量全体としてその分減っては意味がない。
- ・ 消費者は、環境という側面よりも、安心・安全に関心があり求めている。農家もそれを把握している。
- ・ 減減米という売り出し方は、消費者にはわかりづらい。
- ・ 米について、県内で競合しているため、地域ごとの差別化をどう図るかが課題となる。
- ・ 全県的ではなく、地域ごとに取り組みや働きかけを行うことが望ましい。

【参考①】

- ・ 年に一度全国の JA に対して行うアンケートの中で、環境を含む取り組みを行っているという回答した事業所は6つだった（全部で23事業所）。ただし、今後取り組まなければならないと考えていると回答した事業所は20つあった。

品目	環境保全要素を含む GAP に取り組んでいると回答した事業所
米	JA 越後さんとう（長岡）、JA にいがた南蒲（三条）、JA 北魚沼（魚沼）、JA みなみ魚沼、JA 越後中央（新潟）、JA 佐渡
麦	-
大豆	JA にいがた南蒲（三条）、JA 南魚沼、JA 佐渡
野菜	JA 南魚沼、JA 新潟みらい（新潟）
果樹	-
その他	JA 南魚沼（スイカ、ミニトマト、しいたけ）、JA 十日町、JA 胎内市

【参考②】

JA 越後ながおか 「エコ・5－5米」

- ・ JA 越後ながおかは、化学合成農薬使用回数（成分回数）と化学肥料使用量（窒素成分）を、慣行栽培の5割以上減らした特別栽培の取り組みを行っている。農林水産省のガイドラインに沿って栽培を行い、JAブランド「特別栽培農産物エコ・5－5米」として流通させている。（エコ・5－5運動）
- ・ 平成17年度からはじめ、平成30年度には3,014ヘクタールで実施
- ・ 市内小学校の学校給食へも導入されている。

■観光分野における当該地域の現状と課題

- ・ 雪が減っている中で、スノーリゾートとしてPRしている。今後おそらく減少していく中で、どうしていくかが課題。
- ・ 新潟には、「富士山」「アルペンルート」といった派手な素材はない。そのため、海も山も雪もある多様な自然から生まれた多様な食や文化、各シーズンで旬なもの、というところが今後も変わらない売り方になるのではないか。
- ・ グリーンツーリズムは農政部局、マスツーリズムは観光、物産の関連は産業振興と、県も市町村も複雑に役割分担がされている。連携ができていないところもある。

■その他の意見

- ・ 協議会の取り組みが、目標の数値化がのぞましい。経済活性の目標が明確になれば、銀行や企業は本業として生態系保全に取り組むことができる。
- ・ SDGsの取り組みの必要性を感じている団体・企業は多い。
- ・ 信濃川事務所による大河津分水の周辺住民アンケートには、親水に対する自由意見が多数寄せられており、意識や認知度の分析が可能。

【参考③】

新潟日報 「未来のチカラ つたえる つなげる つかえる」

- ・ 新潟県内の特定の地域を一定期間、集中的に紙面やインターネット、イベントなどで取り上げるプロジェクト。地域の特性に応じ、産業、伝統文化、観光、医療、福祉、教育、趣味や生きがいに結びつく企画を各地で実施します。2019年に上越地域、魚沼地域を実施し、全県を3年間で巡る予定。

【参考④】

株式会社ブリッジにいがた

- ・ 「販路開拓」「観光振興」「生産性向上」の3つの事業を柱とし、新潟の地域活性化に貢献するために設立され、アンテナショップが東京都日本橋にある。柏崎市認証米「米山プリンセス」等試食販売を通じて販路拡大を狙っている。